

雪の層を見てみよう

材料

平型のスコップ、水、青い絵の具（青インク）、霧吹き、簡易バーナー（トーチランプ）

実験の準備（液の作り方）

- 1 霧吹きに水を入れ、青い絵の具を溶かす（万年筆などに使う青インクを5～6滴入れてもよい）
- 2 よく混ぜて、青い絵の具の溶液（青インク溶液）をつくる。



実験の方法

- 1 先が平らなスコップで雪の断面が見えるようにする。
- 2 けずった雪の面を平らにする。
- 3 この断面に水でうすめた青インクを霧吹きで吹き付ける。
- 4 この断面を簡易バーナーであたため、断面の雪をはっきり層が見えてくるまで溶かす。
- 5 青インクが作る模様を観察する。



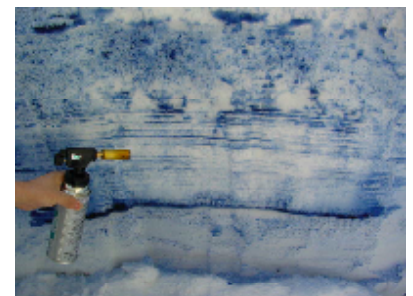
雪をけずる



インクをふきかける



バーナーであぶる



見えた！ 雪の層

発展

吹きだまりの場所、風で雪が流されている場所では、どんな雪の層が見えるだろう。雪の層がいつ頃の雪なのか、層の厚さと雪が降った量から考えてみよう。

情報

積もった雪を観察すると、上はふわふわの雪、一番下がざらめ雪（じゃりじゃりの雪）になっていきます。途中にこのざらめの部分が挟まれていると、はっきりとした層となってみえるようになります。この部分は、雪が降ったときに気温が高かったり、雨が降ったりしたため、雪の層の状態からその時の気温を判断することができます。